

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293100010		
法人名	社会福祉法人 南山会		
事業所名	憩いの里富津		
所在地	富津市青木2丁目20番地16		
自己評価作成日	平成28年2月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ウェルビーイング		
所在地	千葉県木更津市東中央1-1-13マコーラ第一ビル6階604		
訪問調査日	平成27年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は周りに、ショッピングセンターや、公園があり、緑豊かな地域で快適な環境にあります。施設内は、間口の広い玄関となっており明るく、また、廊下もゆとりある広さとなっております。設備は、オール電化で各居室にトイレや洗面所があり、入居者様にとって過ごしやすく暮らせるように配慮しました。キッチン是对面式となっており、食事は3食手作りで、暖かいうちに提供し、入居者様に好評です。また、入浴も週3回行っており、とても喜ばれております。毎月行う行事には、地元のボランティアを招いたり近隣の保育園児との交流を行っています。入居者様とご家族様が面会しやすいよう施設利用料のお支払いは、施設の窓口へ直接お越しいただき、面接の機会を設けています。協力医は24時間対応となっており、安心できる医療体制が築かれています。入居者様が、日々穏やかに伸び伸びと生活できるよう、個人の尊厳を尊重しながら支援させていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設はお洒落な建物で、近くに富津公園やショッピングモールがあり、便利である。グループホームは2ユニットである。管理者は他にも複数の福祉事業を展開している著名人である。施設では快適さと便利を求め、自然の中を散歩する事を特色としている。利用者は公園のお散歩やお花見を楽しんでいる。地域住民との関わりを積極的に行い、連携を図っている。地元のボランティアの参加や、保育園の行事に参加などを行っている。運営推進会議に地域の方の参加や、避難訓練で消防署や、地域住民の協力を得たいと考えている。食事は地元の食材を使い、利用者により美味しい食事を提供している。職員の研修にも力を注ぎ、介護技術の向上に力を入れている。年2回個人面談があり、管理者が見える。職員と話し合う場を設けている。管理者は利用者と心安く接し、職員と共有する事に心掛けている。管理者、職員は、利用者の人格を尊重しながら、適切なサービスを提供し、支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を事務所内や玄関に提示し、毎月行われる全体会議等で再確認を行い、理念を共有して実践しています。	理念を、管理者、職員全員で共有している。毎月行われる全体会議で理念を再確認をし、サービス、運営に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩では地域の方々や挨拶や会話を交わしている。近隣の保育園の行事に参加したり、当ホームの行事に地元のボランティアを招き交流を図っています。	地域の関わりは多い。利用者が散歩や買い物などで、挨拶や会話を楽しんでいる。自治会長が運営推進会議に参加してくれる。事業所の行事に歌のボランティアや踊りのボランティアなどの参加で、楽しませてくれる。近くの保育園の行事に参加したりしている。地域住民とふれ合いができる場を心掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での相談や、突然の施設の見学に対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではサービスや状況についての報告を行っている。会議での意見を全職員に周知し話し合いを行いサービスの向上に努めています。	運営推進会議は、年3回行われている。介護福祉課、自治会会長、家族などで行われ、事業所の取り組みを報告し、意見や要望を頂いている。職員に会議の結果を報告し、検討している。サービス向上に活かしている。	運営推進会議のメンバーは良いので、4ヶ月に1度をもう少し回数を増やす事に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは密に連絡を取り、状況を伝えたり話し合いをすることで、協力関係を築いています。	市からは社会福祉課や、介護福祉課の方が見える。会議に参加して頂いている。生活保護の利用者の相談に乗って頂き、関係を深めている。認知症ケアの理解と、支援が必要なケースも多く、市と共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、すべての職員が正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	事業所は内部研修を行い、職員に身体拘束をしないケアを共有認識を図っている。介護度が高くなり、物を投げたり、知らない内に骨折していたり、利用者の安全の為に見守りを強化している。家族に納得して頂く為に、丁寧に説明し、理解を得られるよう努めている。利用者により自由な暮らしができる様に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議にて学び、職員の意識向上を図り、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	日常生活自立支援制度及び、成年後見制度について会議で学んでいます。成年後見制度については、事例があり支援を行っています。 日常生活支援自立支援制度については、今後必要に応じて活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問点や不安点は、理解・納得していただけるように十分な説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に苦情相談窓口を設けており、契約書に記載すると共に説明を行っています。 また、外部苦情窓口についても契約書に記載し、案内を行っています。	事業所は、苦情相談窓口があり、家族は意見や要望を話す事ができる。家族が窓口を支払に見える際にお話をする事もできる。毎月1回家族に利用者の様子を写した写真や文章を送り、利用者の様子を知らせている。利用者も自分の思いを伝える事ができる。事業所は、意見や要望を話し合い、サービス運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例会議や、年2回の個人面談で、職員の意見や提案を聴き、多くの意見を取り入れています。	年2回の個人面談が、理事長、専務の参加で職員の意見や要望を聞いている。月例会議で職員の気づき、アイデアなど運営に取り入れられている。職員は、皆の前で話せない事を施設長に話すこともある。働く意欲の向上の為に、話す機会を設けている。外部、内部の研修に力を入れ、人材育成に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の実績や能力によって給与水準を定めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修に参加したり、定期的に内部での研修会を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との相互訪問があり、ネットワーク作りを行っています。他事業所との交流する機会を持ち勉強会を行いサービスの質の向上に取り組んでいます。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ず家族同伴の上で本人に見学に来ていただき面談を行っています。要望等を傾聴し、安心納得していただけるよう説明や話し合いを行い信頼関係が築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に必ず本人同伴の上で家族に見学に来ていただき面談を行っています。要望等を傾聴し安心納得をしていただけるよう説明や話し合いをさせていただき信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人ご家族のお話を傾聴し話し合うことで、その時に必要としている支援を見極めています。場合によっては、他のサービス利用についても説明を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や後片付け、洗濯物畳みや居室の掃除、シーツ交換、散歩時に他入居者様の車椅子を押して頂く等、一人一人の有する能力に応じて出来ることをして頂き暮らしを共にする者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に本人を支えていけるように、家族とは小さなことでも常に連絡を取るようになっています。必要であれば面会に来ていただき、直接本人とお話して頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年始の挨拶回りや食事会、墓参り以前住んでいた商店街への買い物等、家族や知人との外出を容認し、関係が途切れることのないように支援しています。	地域の商店街に、買い物や散歩、家族と墓参り、友人が見える、懐かしい人が来てくれる関係を継続できるよう、支援に心掛けている。利用者も介護度が上がり、支援が難しくなって来ているが、管理者は行事やレクリエーションで、外に出る事も多く、人との関わりに力を入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し孤立することがないように、食事席等を配慮しています。散歩時に車椅子を押していただいたり、居室を自由に行き来され一緒にテレビを視聴されたり談話されるなど、利用者同士が掛かり合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も経過を伺い、必要に応じて相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言動や会話の中から希望や意向の把握に努め、その人らしく暮らしていけるように会議等でも検討を行っています。	日々の行動や表情から汲み取り、把握に努めている。家族や関係者から意見を聞き、会議で検討している。利用者がどの様に暮らすのが最良なのか確認しながら、職員は利用者と共に寄り添った支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活環境やサービスの利用経過については入所前に情報を収集し毎月の会議等で話し合い、全スタッフが把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の身体状態や一日の過ごし方を把握しその日その時の状態に合わせて、対応し過ごしていただいています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケース会議を行い、課題とケアのあり方について、話し合いを行っています。その意見に基づき、ご本人やご家族と話し合った上で、介護計画を作成しています。	ケース会議を行っている。利用者がより良く暮らすための課題やケアの在り方を、本人や関係者と話し合った後、介護計画を作成している。変化が生じた時は、個別記録を基にモニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等、個別記録表に詳細に記録することで、情報を共有しています。必要に応じてその都度話し合いを行い実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われないにその時々本人や家族のニーズに対して柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園での花見やドライブ、買い物などで地域の方々と触れ合うことで喜びや楽しみを感じ取ることが出来るように支援をしています。又食材に地元産の安全な農海産物を出来るだけ取り入れるように努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による2回/月の往診があり、必要であれば医師・家族・事業所相談の上、専門医を受診していただき適切な医療が受けられるように支援している。協力医は24時間対応となっており急変時は都度支持を仰いだり往診を行っています。	協力医療機関は、月2回の往診、訪問看護が1回行われ、24時間対応であり、緊急時は安心である。訪問看護、歯科医療も行っている。専門医の通院は家族にお願いしている。結果は医師、看護師、職員と共有をし、より良い支援ができるように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の看護師による1回/月の訪問看護があり、情報や気づきを伝え相談をしています。情報や気づきは医師に報告され適切な指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心してちりょうができるように、病院関係者や家族と連絡を取り合って情報交換を行い退院後に備えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については、本人・家族・関係機関・主治医と十分に話し合い方針を共有しています。地域関係者とのチームでの支援は、今のところ行っていません。	看取りは行っていない。重度化した場合は、利用者、家族、関係機関と十分話し合い、できる限りの支援を行い、医療が必要になった場合は医療機関にお願いする事もある。緊急の為に普通救急講習を受講している。緊急時の対応に心掛け、良い支援に力を入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一部の職員は普通救命講習を受講しており、応急手当や心肺蘇生の方法を習得している。また、緊急時の対応については、定例会議の場で、確認・周知を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により避難訓練を年2回実施しています。スプリンクラー設備、役割分担・連絡たいせいもについては各職員が認識しています。	避難訓練は年2回行い、消防署の協力を得ている。昼夜の避難訓練、避難経路、役割分担、連絡体制など、支援の体制を整えている。職員が近い所におり、心強い。地域の方も協力的である。連携を図りたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人権や人格を尊重し、プライバシーに配慮した、声掛けや対応を行っています。	誇りやプライバシーに配慮した言葉掛けに注意を払っている。トイレ誘導や入浴時など、傷つけないように利用者に優しく接している。利用者の名前を呼ぶ時は、なれなれしくならない様に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表すことが出来るよう働きかけ、納得して暮らしていけるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や日課の体操など時間の決まりはあるが、それ以外は本人のペースで過ごしています。散歩や買い物など出来る範囲で一人一人の希望に添えるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを聴きながら着替えの準備をするなど、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるよう毎食メニューの掲示を行っています。食事の準備や片付け・盛り付けや配膳など個々の能力によって出来ること・得意なことを職員と一緒にしています。	食事は手作りで、美味しい食事が提供されている。地元の食材を使い、安心である。利用者は食事の支度、盛り付け、配膳など、利用者と職員が一緒に行い、利用者の力の維持や向上につながる。個々に合わせ、食事の形態を変えたり、好きな物を飲み、食事が楽しく成る様に支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態により食事形態を変えたり、好みの飲み物を提供している。又、苦手な食べ物は本人の好みに合わせ代替品を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の力や口腔状態に応じて、介助及び声掛け・見守りにて口腔ケアを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間での声掛けや、トイレ誘導を行う事で、排泄の失敗を減らすように支援しています。オムツ対応の方でも、日中はトイレ誘導を行いオムツの使用を減らすように支援しています。	自立に向けた支援を行っている。日中は布パンツで自発的にトイレで排泄ができるように支援し、夜はおむつで対応している。声掛け誘導に心掛け、自然に排泄ができるよう、食事、水分、乳製品に心掛け、また、体を動かす事にも意識して支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には繊維の多い食品や乳製品を取り入れています。また、日課の体操以外にも運動を行っていたりペットボトルに入れた水を居室に置き、何時でも水分が取れるようにと個々に応じて対応をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間は決まっているが、それに合わせて、自分の着替えを準備したり、順番を確認し楽しみにされています入浴の方法については個々に合わせた支援を行っています。季節に合わせ菖蒲湯やゆず湯などを行い入浴を楽しめるよう支援しています。	入浴は週3回入浴ができる。ユニット毎に曜日で変えている。利用者は入浴を楽しみにしている。拒否をする利用者もあり、清潔保持の為に、声掛け支援を行い、入浴している。季節のゆず湯や菖蒲湯など、香りを楽しむ支援を行い、入浴が楽しく成る様心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や状況に応じて、自由に休息していただいています。個々によっては時間を見て離床の声掛けを行い、夜間良眠出来るように、支援しています。夜は睡眠時間を決めず、本人の希望に沿って就寝していただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルにて情報を共有し理解している。症状の変化等あった場合は、速やかに医師に連絡し適切な指示を仰ぐと共に職員へ申し送りを行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や洗濯物量みやおしぼり配りなど個々の力を活かした役割を担うことで張り合いのある日々を過ごしていただけるよう支援しています。季節の行事や誕生会を行なうことで楽しみや喜びを感じて頂いたり、散歩などで気分転換を図るよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に添えるよう、希望があれば買い物や散歩、ドライブなど、戸外に掛ける事が出来るよう支援に努めています。本人の希望を把握し、家族の協力を得て外出できるように支援を行なっています。	外出支援を行っている。近くの公園にドライブやお花見、利用者の希望で家族と一緒に買い物。外出が面倒な利用者も居り、支援が大変である。職員は声掛けや工夫で外に連れ出している。気分転換になり、脳を活性化し、様々な病気の予防にもなる。散歩や歩く事でストレスの発散、職員も一緒に行くと良い支援になるのではないのでしょうか。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、お金を所持されている方はいませんが、ご家族より、お預かり金があるので、希望があれば、買い物へ行きご自身で支払いを行なう支援をします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を受け継いだり、職員が家族へ電話を掛けて取り次いでいます。手紙のやり取りは本人の要望に合わせて支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面キッチンが設置され、食事時はいろいろな音や匂いなどで生活観が感じられる空間になっています。廊下やリビングには四季折々の植物や果物を飾り、四季を感じて居心地よく過ごせる工夫をしています。	玄関に鉢植えの花が置かれている。廊下はバリアフリーで安心である。リビングでテレビ鑑賞。会話を楽しむ。対面キッチンで職員、利用者の協働作業。食器棚の赤は印象的である。光が差し込み明るい。行事の写真の掲示、生活感や季節感を取り入れている。五感刺激の配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、ゆっくりとテレビ視聴や団欒が出来るようになっています。又、玄関・ホール・テラス廊下にはベンチや椅子を配置し、一人一人が好みの場所で過ごせるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具を持ち込んで頂き、写真や人形、お花など好みのものを飾られ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫しています。	居室は利用者に合わせ好みの家具や、飾り物、人形、お花が飾られている。室内にはトイレ、洗面所が設置され、プライバシーの配慮がされ、夜も迷う事無くトイレに行ける。安全な環境づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはトイレと洗面所が設置され、手すりはトイレや廊下等、要所要所に設置してあります。各居室にトイレがあることで、トイレに迷うことなく安全で自立した生活が送れる環境になっています。		